



今 泉 信 明
(立憲農民クラブ)

土砂災害警戒区域付近での 開発行為に関する対応は

速やかに現地確認を行う

問 十和田市防災マップに掲載されている洪水・土砂災害防災マップとはどのようなものか。

答 県が調査、公表している1000年に1程度程度の確率で起こるレベルの最大規模の大雨による洪水、浸水想定区域のほか、県が指定している土砂災害警戒区域等をハザードマップとして地図化したものです。

問 土砂災害警戒区域付近には人家があり住民が生活している。この付近で森林の開発行為が行われた場合、土砂災害の発生が懸念されるが、市民から開発行為の通報があった際の対応は。

答 通報者より詳細を聞き取りし当該箇所の特定制を行い、速やかに現地確認を行います。森林法による県の開発許可を要すると思われる案件の場合は、県へ情報提供を行い、以降は県が主体となり対応することとなりますが、県から要請があった場合には、現地の案内や調査等に協力するなど、適切な対策が講じられるよう県と連携することとしています。

問 観光客に対する防災面でのサポート体制は。

答 観光事業者と連携して観光客向けの災害時対応マニュアルの作成を進めるほか、観光施設などに最寄りの避難所の掲示、被災時の連絡窓口機能設置や多言語対応の周知チラシを配置するなど、観光客に安心、安全に滞在していただける環境を整備していきたいと考えています。

問 飼料高騰に対する畜産農家への支援策は。

答 家畜飼料を含む物価高騰の影響を緩和するため、令和4年度に農業資材等高騰対策事業継続給付金を、令和5年度にはエネルギー価格高騰対策事業者支援給付金と物価高騰対策事業者支援給付金を給付し、畜産農家を含む市内農業者全体に対して支援を行いました。



久 慈 年 和
(立憲農民クラブ)

中央病院の眼科の診療体制は

今年度から常勤医師2名体制に

問 中央病院の眼科の診療体制は。

答 令和5年度まで常勤医が不在だったため、応援医師による診察を週3日行ってきましたが、今年度から常勤医が2名体制となり、白内障手術を中心に手術件数も令和6年5月実績で約5倍に増加しており、患者のニーズに応えることができているものと考えています。

問 中央病院の消化器内科の診療体制は。

答 令和5年度末から常勤医が不在となり、現在は応援医師2名が月曜日から金曜日までの週5日、外来診療と主に内視鏡検査のみを行っています。入院しての胃、大腸のポリプ切除術はできませんが、内視鏡検査は外科と総合診療科で実施しており、前年度の検査件数の約7割をカバーしています。しかし、消化器内科では内視鏡手術ができないため、ポリプ切除を希望の場合は、他の医療機関を紹介しています。

問 三本木霊園の使用状況は。

答 令和6年3月末現在の一般墓地の使用状況は、第1種の使用区画が614区画、使用率97.8%、第2種の使用区画が2,607区画、使用率98.3%です。

問 管理手数料の滞納状況は。

答 令和6年5月末現在の滞納者数は49人、54区画です。

問 引継ぐ人がいなくなり放置されている無縁墓はあるか。

答 無縁墓かどうかの確認はしていませんが、草取りなどの維持管理がされていない区画は、令和6年6月7日現在で43区画あります。

問 無縁墓にならないための対策は。

答 早めに相手に接触し、無縁墓や滞納が増えないように努めます。